

資 料

富山県で絶滅した大型動物(哺乳類・鳥類)の記録 II ナチュラリストからの報告*

南部久男

富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町 1-8-31

The Inhabited Records of the Animals
Extinguished in Toyama Prefecture.
II Informations from Naturalists.

Hisao NAMBU

日本ではすでに絶滅した動物や絶滅に瀕する動物が知られている(環境庁, 1991)。富山県においても同様であるが, その生息していた時の状況や絶滅にいたった過程などはほとんど不明である。そのため, これらを明かにするための調査の一環として富山県の絶滅動物のアンケート調査を行ない, 若干の知見が得られたので報告する。

方 法

アンケートの対象動物は, 富山県では, 江戸時代・明治時代に生息していたと考えられる動物を対象とした。哺乳類では日本では絶滅したオオカミ, 絶滅に瀕するカワウソとアシカ, 西日本等には普通に生息するが, 富山県ではほとんど見られなくなったイノシシとニホンジカの5種, 鳥類では, 日本で絶滅に瀕するトキとコウノトリの2種, 合計7種である。アシカは, 日本海側では, トドと呼ばれることが知られており(中村, 1994), アンケートの質問動物名は「ニホンアシカ(又はトド)」とした。

アンケートは, 平成10年度富山県鳥獣保護員50名及び, 自然や動物に詳しい25名(富山県在住23名, 石川県1名, 新潟県1名)に協力していただいた。回答いただいた内容については, 再度電話などで確認したり, その際に新たに得られた情報もある。アンケート内容は表1の通りである。また, 富山県地図を同封し, 可能なかぎり目撃地点を図示してもらった。2名の方からは, アンケートによらず直接情報を提供いただいた。アンケートは, 平成10年11月27日付けで発送し, 回答

の締め切りは原則として平成11年1月15日までとした。また, これらの方々以外からも参考情報の収集を行なった(今回は調査結果に示していない)。なお, 富山県内の歴史・民族・自然系博物館への絶滅動物に関する資料のアンケートも同時に行ったが(南部, 1999b), このアンケートで得られた一部の情報もここで掲載した(調査結果のイノシシのNo.8の情報)。

調査結果

I アンケート結果

回答は, アンケートによるものは, 富山県鳥獣保護員30名, ナチュラリスト18名, アンケートによらない方2名の計50名の方から得られた。これらの回答者の住所の市町村別人数は次の通りである(括弧内に人数を示す)。富山県; 朝日町(1), 入善町(1), 宇奈月町(4), 黒部市(2), 滑川市(1), 上市町(1), 大山町(1), 大沢野町(1), 富山市(14), 婦中町(1), 細入村(2), 八尾町(2), 小杉町(2), 大門町(1), 新湊市(2), 高岡市(6), 福野町(1), 上平村(2), 福光町(1), 福岡町(2), 石川県金沢市(1); 新潟県青海町(1)。また, 年令の幅は, 次の通りである。31~40歳(7名), 41~50歳(6名), 51~60歳(18名), 61~70歳(10名), 71~75歳(5名)。

アンケートで得られた情報の内, イノシシとニホンジカについては, 下記のように情報を整理した。また, 他の動物についても概ねこれに順じた。

目撃情報のデータを, 各動物のデータの通し番号, 確認場所, 標高(m), 地点番号(括弧で示し, 図2, 3, 4に対応する), 環境庁の富山県のメッシュ番号, 確認年月日, 情報提供者(敬称略), 情報源, 目撃数, 確認状況に分けて整理した。標高は, アンケートと同時に回収した地図から読み取り, 地図に示されていない場合は, 地名からおおよその標高を推定した。メッシュ番号は, 環境庁(1997)によった。確認年は○年前程の場合, それに相当する年を算出した。情報源は, 本人の直接目撃情報の場合はA, 情報提供者以外の方からの伝聞情報の場合はB, 資料情報等の場合はCとした。確認状況は, アンケートに記載された内容と, 電話等で補足確認した内容も加え, 内容が変わらないよう加筆し, 「である調」に統一して記述した。なお, 必要場合は筆者の考えを最後に「」内に示した。データが不明の場合は, *印を記した。その他の情報(非目撃情報など)

*富山市科学文化センター研究業績第214号

は、内容と情報提供者を記した。表 1-1 アンケート票(表)

以下に動物別に目撃情報やその他の情報を、富山県の東の市町村から順に記す。なお、イノシシとニホンジカについては、富山県自然保護課編（1980）のデータも最後に加えた。図 1 に富山県の市町村を示す。

イノシシ

<目撃情報：図 2 参照>

- 1.朝日町小川温泉小川尾安谷付近，400m，(1)，11-5537-25-41，1988年（昭和63年）7月10日頃，勝田栄造，A，オス1頭，沢の崖をのぼり始めた時出合う。目は輝き，体色はややこげ茶色で毛先が光って見えた。
- 2.魚津市小菅沼，200m，(2)，17-5537-13-25，昭和30年代又は40年代，松田勉，B，＊，従兄弟（故人）より，山道で数回に出会ったという話を聞いた。
- 3.上市町早月川，220m，(3)，26-5537-03-65，1998年（平成10年）11月16日，笹山治一，A，1頭，
- 4.上市町黒川，80m，(4)，537-03-52，1993年（平成5年）12月頃，笹山治一，A，オス1頭捕獲し，他に，親1頭，子2頭目撃した。飼育されていた猪らしい。
- 5.細入村割山，280m，(5)，42-5437-61-47，1973年（昭和48年）9月，内山宝造，A，親1頭と子供4頭目撃した。山手の田にまだ稲があった頃で，田の中で遊んでいた。
- 6.細入村猪谷，300m，(6)，50-5437-51-68，昭和40年代，内山宝造，A，＊，畑のサツマイモが掘り起こされていたのを目撃した。雨後見に行くと足跡があった。このような状況は，数年間続いた。
- 7.砺波市井栗谷，＊，＊，32-5437-70-13，1978年（20年程前），寺島芳夫，B，＊，新聞に掲載された。
- 8.砺波市伏木谷，300m，(7)，41-5437-60-41-92，1978年（昭和53年）1月下旬，西岡満，C，1頭，

富山県の絶滅動物アンケート

様式 A1：No.

富山市科学文化センターでは、県内で絶滅したと思われる動物の過去の生息調査を行なっております。イノシシやシカは県内ではほとんど生息しませんし、ニホンカワウソやトキなどは絶滅したと考えられています。これらの動物の現在と過去の生息状況について以下のアンケートにご協力下さい。

以下の質問にお答え下さい。

1. イノシシ、シカについて

目撃情報を教えてください。「ある」と答えられた方は、わかる範囲で下の表にデータをご記入下さい。もし、場所がわかりましたら、別紙の地図にご記入下さい。

- ・イノシシを目撃したことが（ある・ない）○を付けて下さい。
- ・ニホンジカを目撃したことが（ある・ない）〃

動物名	場所*	年**	数・雌雄等
	市・町村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況***)			
	市・町村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況)			
	市・町村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況)			
	市・町村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況)			

- ＊ 富山県内及び県境付近の他県の市町村でもかまいません。
- ＊＊ おおよそでもかまいません。(例) 10 年ほど前、昭和 40 年代
- *** 「周辺の環境」などわかる範囲でお書き下さい。(例) 神通川の川原。飼育されていたものらしい。

その他の情報 1：ある地域でイノシシ・シカを見なかった情報
(例) 昭和 30 年頃から現在まで、魚津市の山中でイノシシ・シカを見たことがない。

その他の情報 2：剥製・写真・文献・新聞記事、伝聞等の情報があれば教えてください。

裏に続きます

- 田んぼに追い込みぬかるみで足をとられたところを銃で捕獲される。1978年（昭和53年）3月剥製にされる。高岡古城公園動物園（高岡古城公園自然資料館）で展示中。
- 9.庄川町五ヶ，90m，(8)，31-5436-77-08，1995年（平成6年）8月30日，間宮寿頼，B，オス1頭，畑で捕獲され，移送途中に死亡。富山県鳥獣保護センターでの搬入時の所見。体長1.3m。体重60～75kg。外見上はイノシシである。ひずめが磨耗しており，飼育個体と思われる。
- 10.上平村人形山，＊，(13)，＊，1955年頃（昭和30年頃），竹原昇，B，1頭，この情報は，上平村在住の山崎信太郎氏による。同氏によれば現在は上平村にはいないが，福光の方にいるらしい。

表 1-2 アンケート票(裏)

2. ニホンカワウソ、ニホンアシカ、ニホンオオカミ、トキ、コウノトリについて

目撃情報を教えてください。「ある」と答えられた方は、わかる範囲で下の表にデータをご記入下さい。もし、場所がわかりましたら、別紙の地図にご記入下さい。

○を付けて下さい。

・ ニホンカワウソを目撃したことが

(ある・ない)

・ ニホンアシカ(又はトド)を目撃したことが

(ある・ない)

・ ニホンオオカミを目撃したことが

(ある・ない)

・ トキを目撃したことが

(ある・ない)

・ コウノトリを目撃したことが

(ある・ない)

動物名	場所*	年**	数・雌雄等
	市・町 村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況***)			
	市・町 村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況)			
	市・町 村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況)			
	市・町 村	明治・大正 昭和・平成	年 月 日
(状 況)			

* 富山県内及び県境付近の他県の市町村でもかまいません。

** おおよそでもかまいません。(例) 昭和初期

*** 「周辺の環境」や「果造り」などわかる範囲でお書き下さい。
(例) コウノトリが電柱に巣をかけていた。○○川でカワウソが泳いでいた。

その他の情報：剥製・写真・文献・新聞記事、伝聞等があれば教えてください。

お名前 (年齢 才)

ご住所 〒 TEL

ご回答いただきました情報につきまして、こちらからご連絡させていただくことがあると思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご協力有難うございました。

送付先 富山市科学文化センター 担当 南部久男
〒939-8084 富山市西中野町 1-8-31 TEL：0764-91-2123 FAX：0764-21-5950

- 11.城端町山田川源流付近ハラダニ（福光町との境），
640m，（12），47-5436-56-39，1988年（10年ほど
前）少し残雪のある頃，前田誠，A，1頭
- 12.小矢部市次郎島小矢部川左岸，30m，（9），30-54
36-76-89，1994年（平成6年）10月30日，土谷和
也，A，1頭，鼠の食害で，小矢部市役所，警察署，
猟友会で追い出し，猟期に3頭捕獲した。飼育され
ていたイノシシのようだ。
- 13.福光町吉見谷（刀利ダムの東），580m，（10），47-
5436-56-65，1998年（平成10年）の初雪の後，前
田誠，A，＊，約3頭の足跡が有り，狩猟を行った
が捕獲出来なかった。イノシシは数年前より刀利ダ
ム周辺の山中に生息し，足跡または土を掘り起こし
た跡を何回も発見している。

- 14.福光町刀利ダム，400m，（11），
47-5436-56-54，1997年（平
成9年）1月5日，前田誠，A，
1頭，1月4日に足跡を確認し，
5日に10人で狩猟を行ない，1
頭確認したが獲り逃がした。こ
のイノシシは，刀利ダムを泳ぎ
渡り石川方面へ逃げた。石川県
側では狩猟期に2頭捕獲されて
いる。
- <富山県自然保護課編（1980）の
イノシシのデータ>
- ・上平村猪谷，1961年（昭和36年）
3月10日

・山田村若土，1962年（昭和37年）
2月

・砺波市梅檀山，1977年（昭和52
年）1月

・城端町山田川源流，1979年（昭
和54年）12月14日
- シ カ
- <目撃情報：図3 参照>
- 1.新潟県青海町大字上路湯ノ谷，
300m，（1），5-5537-35-56，
1997年（平成9年）8月3日，
野紫木洋，A，オス1頭，採食
しながら小脇方面に移動。

2.新潟県青海町大字上路湯ノ谷，
500m，（2），5-5537-35-56，
1998年（平成10年）6月28日，
野紫木洋，A，オス1頭，平成9年8月3日とほぼ
同一地域，暖かい間だけやってくるのか？

3.朝日町大字大平山中，200m，（3），5-5537-35-42，
1997年（平成9年）10月4日，野紫木洋，A，オス
1頭，西水上谷方面へ逃走。飼っていたのが逃げた
のか？

4.朝日町大字大平滝淵林道，300m，（4），5-5537-35
-23，1998年（平成10年）11月19日，野紫木洋，A，
オス1頭，境川を渡り，滝淵手前から西山中へ逃走。
状況の詳細は不明。6月28日の個体と同一かどうか
も不明。

5.上市町馬場島，700m，（5），36-5437-74-63，1998
年（平成10年）10月22日，村井仁志，A，オスの若
い1個体，河川から林に逃げ込む

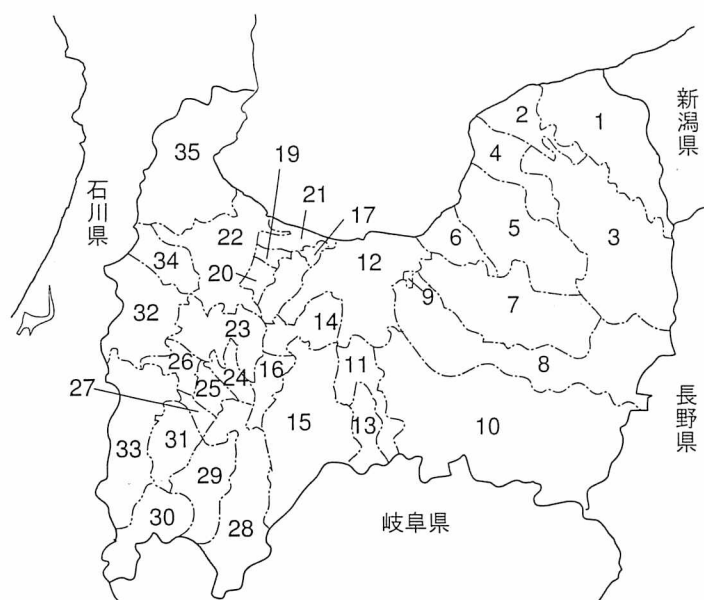


図1 富山県の市町村

1. 下新川郡朝日町, 2. 下新川郡入善町, 3. 下新川郡宇奈月町, 4. 黒部市, 5. 魚津市, 6. 滑川市, 7. 中新川郡上市町, 8. 中新川郡立山町, 9. 中新川郡舟橋村, 10. 上新川郡大山町, 11. 上新川郡大沢野町, 12. 富山市, 13. 婦負郡細入村, 14. 婦負郡婦中町, 15. 婦負郡八尾町, 16. 婦負郡山田村, 17. 射水郡下村, 18. 射水郡小杉町, 19. 射水郡大島町, 20. 射水郡大門町, 21. 新湊市, 22. 高岡市, 23. 砺波市, 24. 東砺波郡庄川町, 25. 東砺波郡井波町, 26. 東砺波郡福野町, 27. 東砺波郡井口村, 28. 東砺波郡利賀村, 29. 東砺波郡平村, 30. 東砺波郡上平村, 31. 東砺波郡城端町, 32. 小矢部市, 33. 西砺波郡福光町, 34. 西砺波郡福岡町, 35. 氷見市。

6. 婦中町長沢, 30m, 33-5437-71-71, (7), *, 高島利男, B, *, シカが車にはねられたと聞いた
7. 婦中町下井沢地内, 20m, (6), 33-5437-62, 1998年(平成10年)10月23日, 間宮寿頼, A, 1頭, ニホンジカがゴミ集じん機内に後あしをさまれ骨折し, 富山県鳥獣保護センターに保護された。飼育されていた個体らしい。
8. 八尾町八尾中核団地, *, *, *, *, 高島利男, A, *, 近年未分譲のところに, シカまたはカモシカの足跡が見られるようになった。
9. 八尾町松原地区, 100m, (8), 32-5437-70-29, 3年程前, 高島利男, B, *, 目撃情報を聞いた
10. 八尾町平林, 100m, (8), 32-5437-70-29, 1992年(平成5年頃)の冬, 高島利男, B, *, 2箇所の山中で, 牛岳スキー場へ行くお客さんがシカを目撃した。飼育されていたものらしい。
11. 八尾町大長谷, 仁歩, 野積, 室牧, 卯花黒瀬谷, 八尾町大長谷, 仁歩, 野積, 室牧, 卯花黒瀬谷, *, *, *, *, 浅井勝男, B, *, 地元住民によれば例年10頭以上目撃される。「大部分がカモシカと思われる」
12. 山田村, *, *, *, *, 高島利男, B, *, ス

キー場でシカが飼われていた。

13. 山田村, *, *, *, *, 浅井勝男, B, *, 例年10頭以上目撃される。「大部分がカモシカと思われる」

14. 山田村, *, *, *, 20年程前の冬, 菅孝充, B, *, 雪の深い所で, 飼育されていたハナジカが逃げ出し, ハンターによって数頭捕獲されたのを聞いたことがある。

15. 高岡市勝木原・西広谷, 40-160m, (10), 13-5536-17, 西岡満, B, *, 高岡市勝木原在住の吉田与八氏(78才)が父親(明治3年生まれ)から聞いた話である。明治10年7, 8才頃, 畑や田んぼにシカが農作物を食べにくるので追い払いに子供がいかさされた。シカがよく来る畑には, シカが食べない胡麻を作っていた。藤木原, 西広谷のシカが絶えてしまったのは, 明治23~25年, 1月15日の一晩に降った大雪でシカたちが山から広谷川の谷筋に現れ, 地域の人たちが捕まえ, この年に絶えてしまった。

16. 小矢部市久利須地内, 200m, (11), 21-5536-06-76, 1995年(2~3年前),

山本茂行, B, 地域住民より聞いた情報で, オスの成体で枝分かれした角を持っていた。

17. 福光町吉見谷アサヌマ, 580m, (13), 1998年(平成10年)11月27日, 47-6436-56, 前田誠, A, オス1頭, イノシシの足跡があったので狩猟中にニホンジカを目撃
18. 福岡町大野, 15m, (12), 22-5536-07-55, 1988年(昭和63年), 土地 和也, A, オス1頭, 国道8号線で自動車事故で死亡

<富山県自然保護課編(1980)のデータ>

- ・富山市秋ヶ島地内神通川河畔の藪, 1968年(昭和43年), オス1頭

イノシシ・シカの非目撃情報

- ・昭和37年以降, 黒部, 宇奈月, 魚津ではイノシシは見えていない(村瀬良信)
- ・昭和52年頃から現在まで, 富山市, 大山町, 大沢野町, 立山町, 上市町, 魚津市などでシカはみたことがない(笹山治一)
- ・昭和45年から現在まで県内ではイノシシ, シカは見えていない(小林英俊)

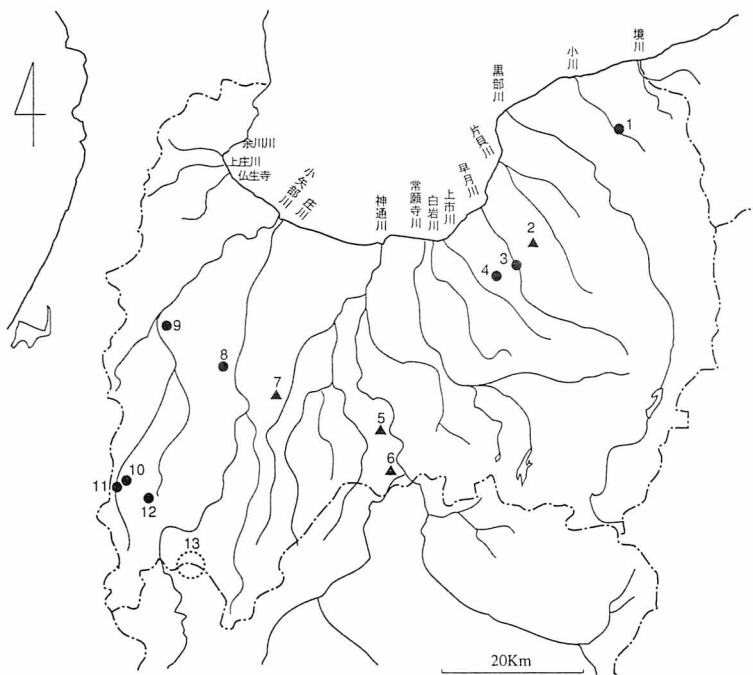


図2 イノシシの確認情報。数字は、本文中に対応する。●は過去10年間（1988～1998）の確認情報。▲は、11～30年前（1968～1987）の情報。

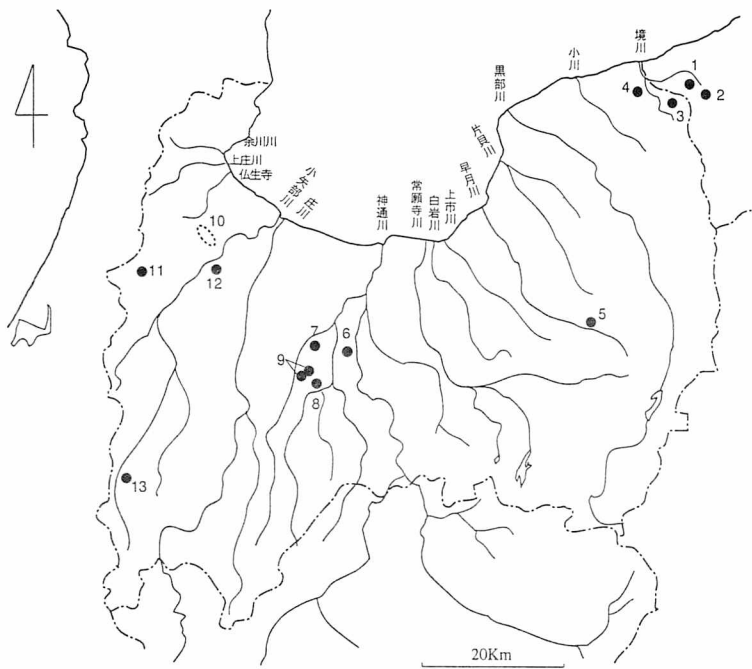


図3 シカの確認情報。数字は、本文中に対応する。●は過去10年間(1988~1998)の確認情報。

- ・父親が狩猟をやっていた為、小学3年頃（昭和28年頃）よりフィールドに出て県下の殆どの地域を歩いたが、シカ・イノシシを見たことがない。（菅孝充）
- ・平成4年から現在まで、県内でイノシシ、シカを見たことがない（朝比奈裕子）
- ・昭和25年頃から現在まで、宇奈月町でイノシシ、シ

力を見たことがない（大田保文）

- ・現在まで宇奈月町ではイノシシ、シカを見たことがない（中久之）
- ・狩猟を初めてから（昭和48年10月14日）
現在まで、立山町の山中でイノシシ、シカ等を見たことがない（杉本 忠夫）
- ・昭和20年頃より現在まで小杉町山中にてイノシシ、シカ等見たことがない（山崎 保之）
- ・昭和25年度より狩猟をしているが、砺波市、東砺波郡内ではイノシシ、シカを見た者はいない（寺島芳夫）

カワウソ

＜その他の情報＞

- ・昭和20年代に笹川（朝日町）のトンネルと川床にカワウソがいる話を聞いたり、ばかされたという話を聞いたことがある（勝田栄造）
- ・昔カワウソがいたという話を父親（大正元年生で富山市高屋敷に育つ）から聞いた記憶がある。（小林英俊）
- ・子供の頃（昭和10年代），父・祖父より仁歩川（八尾町）で、カワウソがすんでいるので、近づいてはだめだといわれた記憶がある。（高島利男）

コウノトリ

＜目撃情報＞

1. 富山市横越常願寺川左岸, (1), 2 m, 25-5537-02-93, 1978年(昭和53年)8月15日-16日, 熊木信男, A, 1 個体(性別不明), 水中を歩き廻ったり岸にあがったりしていた。写真撮影したものが読売新聞に掲載された。翌日, テレビ撮影隊が近づくと飛び去ってしまった。
2. 富山市横越常願寺川原内, (1), 2 m, 25-5537-02-93, 1973年(昭和53年)8月16日, 小林英俊, A, 1 羽雌雄不明, 川の浅瀬で採餌していた。写真を撮影した。
- 過去10年
3. 富山市常願寺河口, (1), 2 m, 25-5537-02-93, 1978年(昭和53年)8月15日, 松田勉, A, 1, 迷行個体。
4. 富山市藤ノ木新町常願寺川左岸(大日橋~常盤橋の間), (2), 30m, 25-5537-02-12, 1998年9月14日, 樋口泉, A, 2 羽, 早朝の6時頃目撃。前日渡来し,

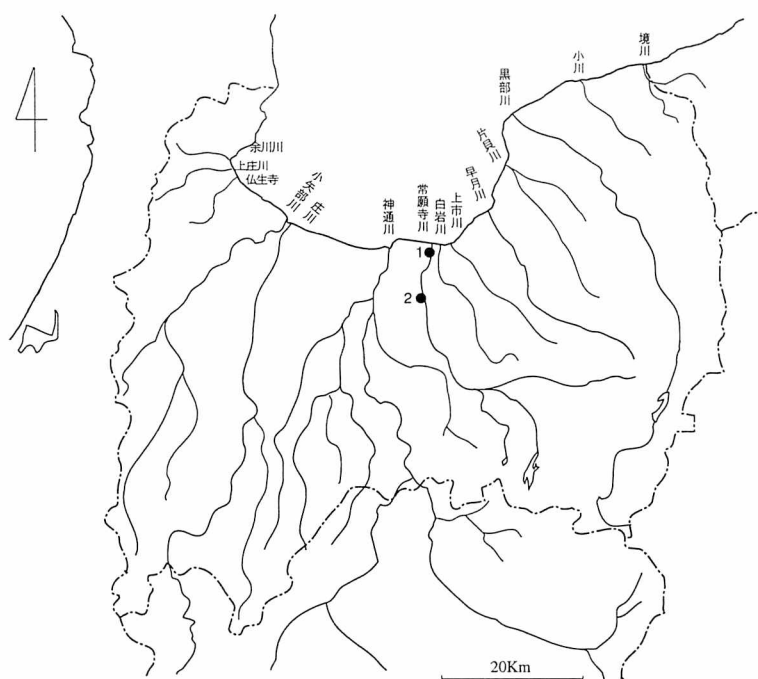


図4 コウノトリの確認情報。数字は、本文中に対応する。

寝ていたようだ。翌日にはいなかった。写真撮影は行っていない。

ト キ

<その他の情報>

- ・55年間野鳥の観察をしているが、トキは見たことがない（熊木信夫）

その他の動物

- ・カモシカが野積など（八尾町）でみられるようになったのは近年（10年ほど前）のことである（高島利男）

II まとめ

イノシシ

イノシシは現在富山県には生息せず、標行してきたと思われる個体が稀に見られる程度である（富山県自然保護課編，1980）。今回，朝日町，魚津市，上市町，細入村，婦中町，砺波市，小矢部市，城端町，上平村，福光町から14例の目撃情報，狩猟情報が寄せられた。そのうち8例は，最近10年間程（1988～1998年）の情報であり，上市町，小矢部市，庄川町の情報には，飼育されていたものであるらしいというコメントが寄せられた。高田（1994）によれば，富山県では，猪豚が1977～1990年（昭和52～平成2年）に朝日町で，氷見市の山間部でも約50頭が食肉目的で飼育され，猪豚は，猪の雄と豚の雌の1

第雑種がほとんどであると述べている。今回，上市町で10年ほど前より現在まで食肉以外の目的でイノシシが飼育されているという聞き取り情報も得られた。富山県内のイノシシの飼育実態は明らかではなく，今後調査が必要であるが，数カ所で飼育されているようであり，今回のアンケート調査の目撃例の中には，飼育され逃げたもののがかなり含まれていると思われる。

過去10～40年前までさかのぼると，魚津市，細入村，砺波市，上平村から6例の情報が得られた。他に4例が既に報告されている（富山県自然保護編，1980；イノシシの項参照）。田口（1984）は，1981年（昭和56年）以降行なわれたアンケート調査で岐阜県内のイノシシの生息状況について述べている。それによれば，イノシシは岐阜県では県南部一帯に生息するが，北部（飛騨地方）では生息域は

少なくなり，宮川村，河合村，白川村（富山県南部と隣接する）で1945年（昭和20年）以降生息情報が得られていると述べている。また，聞き取り調査より，これらの地域のイノシシは，冬期間南部へ移動すると述べ，移動推定経路を図示している。今回の調査で確認情報の得られた細入村や上平村は岐阜県と隣接し，これらの個体は，飛騨地方からの漂行個体の可能性がある。

今回の非目撃情報には，地域や年代を示し，イノシシを目撃したことがないというものと，目撃していないという設問のみに回答をしていただいた方も多くあった。このような非目撃情報や，前述のように近年の目撃例の中には飼育個体も含まれると思われること，過去（10～40年前）の目撃情報も少ないこと等より，過去数十年前から現在までの富山県のイノシシの生息状況は，岐阜県などから漂行個体が見られる程度であり，その頻度は多くなく，富山県のほとんどの地域では定着していないと思われる。

しかしながら，福光町の刀利ダム周辺の例では，近年，毎年冬期間に確認されていることより，定着している可能性がある。自然分布かどうか，冬の積雪期に生活が可能かどうかは不明であり，今後，石川県側の情報が必要である。

ニホンジカ

ニホンジカもイノシシと同様に富山県には生息せ

ず、標行してきたと思われる個体が稀に見られる程度である（富山県自然保護課編，1980）。今回，18例の目撃情報が得られたが，そのうち，2例はカモシカと思われる情報であった。8例のシカの目撃情報は，最近10年間の情報である。婦中町，八尾町，山田村の情報には，飼育されていたものであるらしいというコメントがよせられた。今回，八尾町で平成の初め頃より4～5年前まで，ニホンジカ，エゾジカ，九州産のシカ等が飼育されていたらしいという聞き取り情報も得られた。富山県内のシカの飼育実態は明らかではなく，今後調査が必要であるが，今回のアンケート調査の近年の目撃例の中には，飼育されていたニホンジカやニホンジカ以外のシカが含まれていると思われる。

一方，過去10～40年前の確実にニホンジカと思われる情報は全く集まらなかった。過去の記録では，1968年（昭和43年）の富山市の1例が報告されているに過ぎない（富山県自然保護課編，1980）。岐阜県では，1981年（昭和56年）以降行なわれたアンケート調査で，岐阜県北部のニホンジカの生息は飛騨南部に限られ，飛騨地方では生息しないと報告している（岩田，1984）。このような飛騨地方のニホンジカの生息状況を考えると，今回の過去10～40年前のアンケート結果は妥当なものと思われ，岐阜県からのニホンジカの漂行個体は極めて稀であると思われる。

今回のアンケート調査で注目されるのは，高岡市の情報である。これは，明治時代中期にはシカが生息し，豪雪のため谷に集まってきたシカが捕えられ，この地域で絶滅した情報であるが，豪雪と人為的な影響（捕獲）で，特定地域のシカがほろびた富山県でははじめての情報である。明治時代には，鹿皮が高岡市と隣接する西砺波郡と射水郡で生産され，西砺波郡では，明治34～43年に30～170枚ほどが，射水郡では明治34年に50枚が生産されていたことより（南部，1999 a），ニホンジカは，富山県では西部を中心に生息していたと考えられる。また，大正末には，シカは富山県の狩猟統計にはあがっておらず，この頃にはほとんど生息していなかったと思われる（南部，1999 a）。今回の情報や明治時代の統計により，富山県西部の他地域でも，多雪や豪雪によりシカが積雪の少ない地域に集合し，捕獲されたため，地域的な絶滅がいたるところで起きたと推測され，このことが面積の狭い富山県でのシカの絶滅を招いたと考えられる。このことを証明するには，他地域での今回のような情報収集が必要である。

カワウソ，アシカ，オオカミ

カワウソについては，富山県には現在は生息しないと思われるが，過去の生息状況は，今回のアンケート結果からは情報が少なく不明である。明治時代には富山県で毛皮が生産されたことが知られ（南部，1999 a），この頃には生息していたと考えられる。オオカミ，アシカについては生息情報は得られなかった。アシカは海の動物であり，漁業関係者からの情報収集が必要であると思われる。

コウノトリとトキ

コウノトリの目撃情報は，4例寄せられたが，1978年の常願寺川の目撃情報は全て同一個体（1個体）であり，この個体はすでに報告されている（富山県野鳥保護の会編，1989）。今回，同じ常願寺川で1998年の新たな情報が加わった。飛来状況は不明であるが，標行個体と思われる。トキの目撃情報等は得られなかった。

今回のアンケート対象動物は，現在の富山県では絶滅してしまった，あるいはほとんど見られない動物であるが，このような状況は，数十年間までさかのぼってもほとんど変わらないことが今回のアンケート結果は物語っていると思われる。イノシシやシカについては，飼育個体の逃亡と思われる目撃情報が得られ，これは，アンケート調査の結果判明したことである。自然分布と区別するため，県内の飼育の実態や有害鳥獣駆除の調査が必要であると思われる。また，絶滅動物のアンケート調査は，すでに，明治生まれの方がほとんどいない現代では，直接情報よりは，本人の父親等からの間接情報が主になり，ほとんど残っていないと思われたが，今回，明治時代の貴重な情報提供があり，少ないながらもまだ残っていることが示唆された。また，イノシシやシカは，岐阜県では，現在も南部を中心に生息し（田口，1984；岩田，1984），積雪の状況によって分布域が変化し，岐阜県北部，富山県へと生息域が拡大する可能性もあると考えられ，継続的なアンケート等の情報収集や調査が必要である。富山県のみならず，隣接する岐阜県北部，石川県東部，新潟県西部の情報収集も必要と思われる。また，絶滅動物調査は，アンケート調査だけでは限界があると思われ，文献調査や資料調査，統計調査等が必要である。今後，江戸時代後期，明治時代，大正時代，昭和初期（戦前）の情報が得られてはじめて，これらの動物の絶滅過程が明かになるとと思われる。

謝 辞

今回の調査で、多くの方々から貴重な情報を提供いただいた。ここに記して厚くお礼申し上げる（五十音順、敬称略）。

富山県鳥獣保護員の方々

青木政文、赤座久明、浅井勝男、穴田哲、内山宝造、浦崎悦朗、浦田啓一、大田保文、大沼進、金田米雄、北川修、熊木信男、小林忠行、坂田健、笹山治一、澤村義則、菅孝充、杉林修、杉本忠夫、瀬口吉秋、高尾宗嗣、高島秀雄、高林義之、谷口忠敏、田村実、土谷和也、鶴丸次郎、寺島芳夫、寺田正義、土池仁一、中久之、中谷信一、西川正雄、西本博志、狭間正雄、羽馬誠一、早川由信、林梅夫、前田誠、松田勉、間宮寿頼、村木清、村瀬良信、山崎保之、山下栄治、山田政夫、山根武夫、山野浩平、湯浅輝久、米原一輝。吉田与八氏、山崎信太郎氏には、鳥獣保護員の方による聞き取り調査にご協力いただいた。

富山県、新潟県、石川県でフィールドで哺乳類や野鳥等の調査や観察をされ、アンケート調査にご協力いただいた方々

朝比奈裕子、荒木克昌、池田善英、泉治夫、勝田栄造、桐山泰司、小杉潤、小林英俊、佐藤久三、澤田昭芳、篠田耕児、高島利男、高橋輝男、高畑晃、竹原昇、舘澤二、多奈田功、西岡満、樋口泉、前馬奈美、松木洋、水野透、道山勉、村井仁志、村山美佳、野紫木洋、山本茂行、横畑泰志。

富山県の絶滅動物の情報等を提供いただいた方々

明瀬正則、稲村修、大野豊、岡圭一、金子玲子、佐伯定芳、篠原成一、清水巖、高橋政則、中川敦子、長谷川行寛、福田保、宮本望。

岐阜県のイノシシやシカ、ニホンアシカの文献や情報を提供いただいた方々

梶浦敬一、榎田俊治、嶽本清一郎、田口正弘、中村一恵、佐藤仁志。

富山県自然保護課には、鳥獣保護員の方へのアンケートにご協力いただき、同課長湯浅純孝氏には、富山県のイノシシ、シカ等についてご教示いただいた。富山

県動物生態研究会の方々には貴重なご意見をいただいた。志波友子さんには、データ整理及び図の作製をしていただいた。

以上の方々ならびに、諸機関に厚くお礼申し上げます。

本研究は、平成10年度富山県博物館協会の研究助成金の一部を用いた。

参考文献

- 環境庁編, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物, レッドデータブック, 脊椎動物編. 331pp.
- 環境庁, 1997. 都道府県別メッシュマップ16富山県. 自然環境保全基礎調査用.
- 岩田洋記, 1984. 2章生態, シカ. 岐阜県における哺乳類の生息状況と, その環境調査及び環境教育にかかわる研究. pp.68. 岐阜県哺乳動物調査研究会発行. 284pp.
- 中村一恵, 1994. ニホンアシカの復元にむけて(10). アシカ島, トド島の分布—アシカ類地点名の考察—. 海洋と生物16(6): 493-502.
- 南部久男, 1999a. 富山県で絶滅した大型動物(哺乳類・鳥類)の記録 I 明治・大正時代の富山県における哺乳類の毛皮及び狩猟等の統計. 富山市科学文化センター研究報告(22): 153-168.
- 南部久男, 1999b. 富山県で絶滅した大型動物(哺乳類・鳥類)の記録 III 博物館資料からの報告. 富山市科学文化センター研究報告(22): 177-181.
- 高田浩, 1994. 猪豚. 富山大百科上巻.p.137. 北日本新聞社. 1047pp.
- 田口五弘, 1984. 2章生態イノシシ. 3章民俗, 岐阜県下のイノシシに関する調査報告. 岐阜県における哺乳類の生息状況と, その環境調査及び環境教育にかかわる研究. pp.65-67, 194-213. 岐阜県哺乳動物調査研究会発行. 284pp.
- 富山県自然保護課編, 1980. 富山県の鳥獣. 242pp. 富山県.
- 富山県野鳥保護の会編, 1989. 富山県の鳥類. 104pp. 富山県.